オリンピックスポーツ文化研究
2019. 6　No. 4　231 ― 233

視察報告

アジアパラ競技大会（2018）開会式

山　口　真　緒（総合スポーツ科学研究センター）
兼　本　智　仁（総合スポーツ科学研究センター）

2018 年 10 月 6 日から 13 日，インドネシアジャカルタでアジアパラ大会が開催された．今大会には 43 の国と地域から総勢 2,832 名の選手と 1,900 名の役員が参加し，中国（広州）と韓国（仁川）を上回る数であった．

会場は，同年 8 月に開催されたアジア大会と同じくゲロラ・ブン・カルノ・スポーツ複合施設であった．施設内は，広い公園のようになっており，陸上競技用のメインスタジアムに加え，シッティングバレーや車椅子バスケットボールが行われる体育館や競泳場等，各競技会場が徒歩圏内に設置されている．また，各会場やその周辺施設ではバリアフリーが考慮され，すべての場所へ車椅子でアクセスができるようにスロープが付けられていた．また，総計 5000 人ものボランティアが会場内の至る所に配置されていた．

開会式はメインスタジアムで開催された．行われていたショーは VIP 席のあるメインスタンドに向けて披露されており，死角となるバックスタンドは締め切られていたため，観客はスタジアム全体の三分の一程度のエリアに密集していた．観客の多くは現地インドネシアの人々であった．演出に関しては，インドネシアの伝統舞踊や，様々な形をしたモスクの登場やムスリムの人々の踊り，車椅子バレエや視覚障がいを持つ少女のピアノの弾き語り，障がいのある人たちで結成されたダンスグループのパフォーマンスなど，インドネシアの文化と障がいを持った人々のパフォーマンスが交互に表現されていた．

選手入場では，南北朝鮮（Korea）の選手団が登場した際に南北統一旗（白地に水色で朝鮮半島が描かれている）が掲げられ，選手たちは白い制服を着て堂々と入場していた．観客席からは国名を叫びながらの応援が起こった．また，パレスチナ（２名）選手団が入場してきた際にも，大きな声援があった．パレスチナは前回大会で１３名のパラ選手が出場していたが，パレスチナ問題により，イスラエルとの間で紛争が起き，一般市民を巻き込んだ被害が多く報告され，パラスポーツの従事者への被害も予想される中でのアジアパラ大会への参加に対した敬意を称しているのではないかと推測する．そして，最後に登場したホスト国のインドネシア選手団入場の際には，会場全体がインドネシアの国旗の色にある赤のライト一色になり，大会公式テーマソングに合わせて大きな声援が鳴り響いた．

インドネシアアジアパラ競技大会組織委員会委員長のスピーチでは，インドネシアの多様性，そしてそれぞれの民族が団結してインドネシアの国が成り立っているということを強調していた．また，今大会が始まる約１週間前に起こった地震と津波で甚大な被害を受けた北部スラウェシ島の追悼を行ない，今回のイベントの成功を被災地に伝え，被災者への慰謝と新たな気力に繋げる決意を表明していた．さらにアジアパラ大会を通して，スポーツマンシップや結束力，博愛，調和の関係をアジア国の中で築くことや，パラ選手を「Super Humans」と称して，パラスポーツに対する意識

の向上を目指したい意向を話していた．

開会式の様々なパフォーマンスが繰り広げられる中，異なる障がいを持った人たちが何かに熱心に取り組む姿がスクリーンに映し出され，それぞれが持っている思いを一つにした言葉“ABILITY”という言葉を車椅子に乗った少女が箱に入れ，大統領へ渡した．それを受け，大統領はその少女と共にアーチェリーの弓矢で 会場の中心にあった“DISABILITY”のモニュメントの“DIS”を撃ち砕き“ABILITY”へと変わる演出を見せた．それには，多くの観客が湧き，一番の盛り上がりを見せた．

（受理日：2019 年 4 月 1 日）

チーケット販売所に設置された
車椅子専用スロープ

会場の外で待機するパフォーマー達

聖火が聖火台に灯され，
開会式はフィナーレを迎える

声援が選手のパフォーマンスに影響するため
試合開始前は「静粛に」という
アナウンスがあった

DISABILITY の“DIS”が崩れ落ち，
ABILITY になった瞬間

段差を無くした表彰台の工夫

視覚に障がいのある人が参加できる
ゴールボール

開会式前の施設内の様子

開会式直前の会場の様子．ステージが見える
観客席は約三分の一程度埋まっていた．